

会議録

1 附属機関の名称

犬山市特別支援教育連絡協議会

2 開催日時

令和 5 年 2 月 24 日（金） 午後 2 時 30 分から 3 時 30 分まで

3 開催場所

市役所 4 階 401 会議室

4 出席者

- (1) 委員 岩田吉生、梶田真琴、長谷川誠、大藪正恭、森泰人、小室武嶋崎崇大、高見順子、鈴木由里恵、井塚裕士、山本直美
松澤晶子、鈴木努、後藤まゆみ、高木順二、野口和敬
- (2) 事務局 滝教育長、加藤指導主事、松岡主査補

5 議事内容

事務局（加藤）：

定刻となりました。

本日は大変お忙しい中、御出席いただき、誠にありがとうございます。

ただいまより令和 4 年度第 1 回犬山市特別支援教育連絡協議会を開催します。進行は、犬山市教育委員会学校教育課の加藤が務めさせていただきますのでよろしくお願ひします。

それでは、まず始めに滝教育長からごあいさつを申し上げます。

滝教育長：

～あいさつ～

事務局（加藤）：

先日お願いいたしました委員委嘱について承諾いただき、ありがとうございました。

任期につきましては、今年度末までとしておりますので、どうぞよろしくお願ひします。

それでは、今年度はじめての協議会になりますので、資料 1 をご覧いただきながら、簡単に自己紹介をお願いしたいと思います。

なお、所用により、犬山西小学校の和田委員、子ども未来課の伊藤委員は欠席となります。

では、資料 1 をご覧になりながら、愛知教育大学教授の岩田委員より名簿順

をお願いします。

《各委員自己紹介》

事務局（加藤）：

それでは、確認・報告事項について、事務局より説明をさせていただきます。

《資料2説明》

《資料3説明》

事務局（加藤）：

続きまして、この委員会では、資料1の第4条2項にありますとおり、会長及び副会長は、委員の互選により定められておりますが、ご推薦などいかがでしょうか。

森委員：

会長を犬山市小中学校校長会代表で特別支援担当の大藪委員に、副会長を犬山市小中学校長代表の長谷川委員にお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

（異議なしの声あり）

事務局（加藤）：

異議なしということで、会長を大藪委員に副会長を長谷川委員にお願いしたいと思いますので、よろしくをお願いします。

それでは、会長よりごあいさつをお願いします。

大藪会長：

～あいさつ～

事務局：

ありがとうございました。

それでは、ここからの議事進行については、会長である大藪委員に議長をお願いしたいと思いますので、会長よろしくをお願いします。

大藪会長：

それでは規則に基づき、私が議事進行をさせていただきますので、委員の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

まずは先ほど事務局より説明のあった会議録の署名については、会長の私と副会長の長谷川委員でお願いします。

それでは、岩田委員から情報提供ということでお話をお願いします。

岩田委員：

《「進路や就労に向けた児童生徒の指導支援」についての情報提供》

大藪会長：

ありがとうございました。

せっかくの機会ですので、意見交換をしたいと思います。委員の皆様には岩田委員のお話や特別支援教育に関してお話しいただけることがあれば、お願いしたいのですが。

梶田委員：

本校は特別支援学校の中でも肢体不自由の学校で、岩田先生のお話の中にあつた知的障害のお子さんとはまた違った進路指導という悩みを抱えています。肢体不自由の学校は皆さんそうだと思いますが、重症化がとても進んでおりました通常的一般就労というのは難しい状況にあります。ただ、本校の目標は、岩田先生も言われた通り、子どもたちの自立というものを多く掲げております。その中でも中学部につきましては、小学部、地元の小学校などで培った力をさらに発揮する力というものは、卒業後にこの子たちの力には必要だということで、そういった機会を意図的に徹底する教育をしております。

卒業後の進路という指導の一つとして、小学部、中学部の団体から本人だけではなく保護者の進路に向けての意識付けをととても意識的に行っております。特に昨年度より本校の中学部におきまして、子どもだけではなく保護者と一緒に近くの施設を見学したり、中学部の進路指導主事と懇談会を設定しまして希望を聞いたり、具体的にどういふところがあるのかという情報提供をしたりということを積極的に行っております。その結果、保護者の中からは今の段階でそういった情報が得られて良かったという声をたくさん聞いております。地元の中学校に肢体不自由の特別支援学級だけではなく通常級にもおそらく肢体不自由の手帳をお持ちのお子さんが在籍していると思いますので、そういったところにも気を向けてお話をすることにより、卒業後社会に出た時の材料になっていくのかなと岩田先生のお話を聞いて思いました。

長谷川副会長：

先ほど、自己紹介のところで中学校における特別支援教育のあり方、それから体制作りということで、今年度、私が学校で取り組み始めていることがいくつかあります。まず出来ることからとして、小学校から中学校に進学する際のギャップが問題となっていますが、いろんなルール、拘束、時間的なことにギャップがありますが、そこをなるべく縮めていこうということを少しずつ取り組んでいます。例えば拘束を緩やかにするとか、放課はきちんと確保するなどの取り組みを行っています。

あと、本校にも特別支援教育コーディネーターがいますが、市内の学校において校務主任が担当することが多いです。主に校務主任の仕事というと、学校のいろんな整備を担当していますが、他にもいろんな仕事を抱えているので特別支援教育コーディネーターに専念してもらうために、校務主任の仕事を少しずつ教頭先生に任せています。今、考えているのは、愛知県も障害者雇用促進を進めているので私も手を挙げまして、障害者枠で学校業務支援員、簡単な作業をしてもらう人を探しています。そのため、周りの方にも声をかけたりしていますが、行政のほうでも照会していただけたらと思っています。ですから、特別支援教育コーディネーターには職に専念できるような取り組みをしています。

あと、今年度から授業後に関係者で集まり個別事案についてケース会議を行い、保護者の方や、関係機関と連携が取れる体制づくりを行っています。つい先日、校内でも支援委員会がありましたが、どうしても子どもたちの学習状況に目が行きがちです。しかし、一番大切なことは、障害の有無にかかわらず子どもたちが少しでも自立できる力を付けて卒業させるといふことで、先生方とは確認しました。中学校というのは、昔から特別支援教育というよりは生徒指

導という発想で子どもたちに支援や指導をしています。生徒指導を行う子どもは特別支援教育が必要であると考え、特別支援教育体制を構築できるようにやれることから取り組んでいるところです。

高見委員：

幼稚園では、通常の学級のところに支援が必要な子がいるので、加配教諭を付けています。加配教諭は2名の子に対して1名の教諭が配属されています。その子ども本人が過ごしやすいように、多くの職員が関わっています。そのため、園での生活状況など職員同士で連携をとり支援方法について今後どうやって対応するかを職員室で話しています。年齢に合わせて、自分のことは自分で出来るように大切に保育することを心掛けています。1人1人対応は違いますが、朝の支度については、文字やイラストを使いながら教えたり、給食の時間の準備している間を待つことが出来たらほめてあげることによりできたという達成感を味わえるようにしたりなど、いろんな支援方法を考え、自己肯定感を高めることにつなげたいと考えています。

あと、保護者さんと毎日顔を合わせるにより、まめに連携がとれるため、家庭での様子を伺い、それを保育に活かすように毎日過ごしています。

山本委員：

福祉サービスの観点からお話をすると、児童発達支援や放課後デイサービスがありますが、手帳を取得していなくても療育の観点から必要だと判断した場合、サービスを受けることができます。その中で、基本的な動作の始動であったり、知識技能を高めたり、集団生活に適應していただくような事業所があります。学校だけではなく、放課後の部分において様々なサービスが受けられるということで、今、このサービスを受けられる方が増えています。令和2年度と令和3年度を比べると児童発達支援を受けられる方が1.45倍、放課後デイサービスを受けられる方が1.14倍もいます。こういったサービスが世間に認知されています。支援者の中でも横のつながりを広くして1人の子を支援できる体制づくりを構築できればいいと思います。福祉課の方で、重層的支援体制ということで、それぞれのカテゴリーではなく、制度を横断的につないでいくような支援体制を準備しているところです。カテゴリーに関係なくいろんなところからの支援が結びつくことは、以前にはなかったことであり、いいことだと思います。

鈴木委員：

私は、発達支援の相談を受けていますが、保護者からの相談は、基本的に自分の子どもの障害について自覚をしている上で相談をされていますが、相談の多くは自宅では困っていないが、幼稚園、こども未来園で困っているということで相談を申し込まれるケースが多いです。その理由については、自分の子どもを周りの子と比較できていないことから幼稚園、こども未来園で気づくことがあるのかなと思います。

あと、相談員の先生からのアドバイスもなかなか理解されていないように受けたりします。そのため、今後、どういった方法で保護者にうまく伝えることができるかを考えて対応していきたいと思っています。

大藪会長：

貴重なご意見ありがとうございました。

本日、お話していただいたご意見をもとに、さらに一人一人の教育的ニーズに応じた支援の充実に向けて、それぞれの立場において対応していけたらと思

います。

そして、今後も、関係機関がよりよく連携していけたらと思います。
それでは、事務局に進行を返します。

事務局（加藤）：

ありがとうございました。

以上で、令和4年度第1回犬山市特別支援教育連絡協議会を閉じさせていただきます。

お帰りには、交通安全にご留意いただき、お気を付けてお帰り下さい。

本日はどうもありがとうございました。